



■はじめに

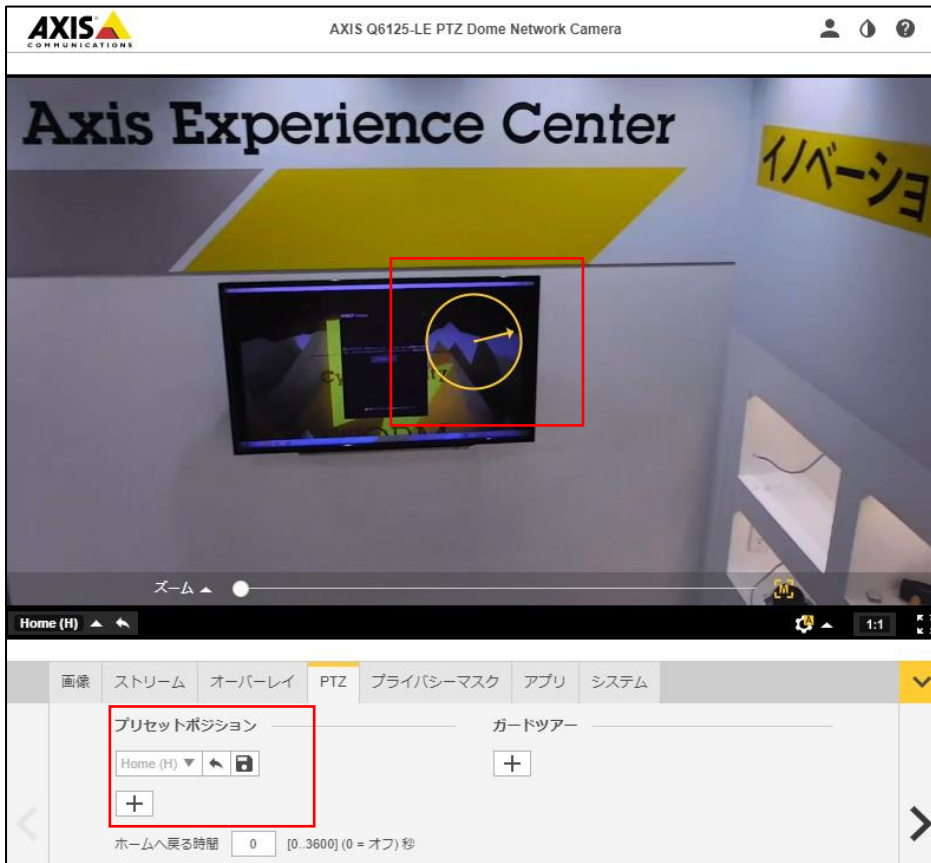
本手順書では、AXIS 製固定カメラ（バージョン7以降；Video Motion Detection 4）が動体検知をしたときに、連動して別の Axis 製 PTZ ネットワークカメラを任意のプリセットポジションへ向けるための設定について説明しています。

■設定手順

手順1：PTZ ネットワークカメラにプリセットポジションを登録する

固定カメラ側で動体検知があった時に、PTZ カメラを向ける位置を、「プリセットポジション」としてカメラへ登録します。

1. Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザの URL 入力欄に、PTZ ネットワークカメラの IP アドレスを入力して Enter キーを押します。
3. Live View ページ右下の「設定」ボタンをクリックします。
4. 「PTZ」タブを開くとプリセットポジション画面が表示されます。
5. ライブビューの画面中央にマウスをあわせ、PTZ 操作を行いプリセットポジションとして登録したい位置へ移動し、向きとズームの状態を調整します。
6. 「プリセットポジション」欄の「+」をクリックし、位置を登録する際の名前を任意で入力します（使用可能な文字は半角英数のみです。）
7. もしもこの位置をホームポジションに設定する場合は「ホームポジション」をクリックし有効にします。
8. 「保存」ボタンをクリックして位置を登録します。



※参考：プリセットポジションへ移動後、指定した時間でホームポジションへ戻すには PTZ ネットワークカメラでは、ホームポジションを登録してある場合、PTZ 動作でカメラの向きが変わったあと指定した時間でホームポジションへ自動的に戻るよう設定できます。

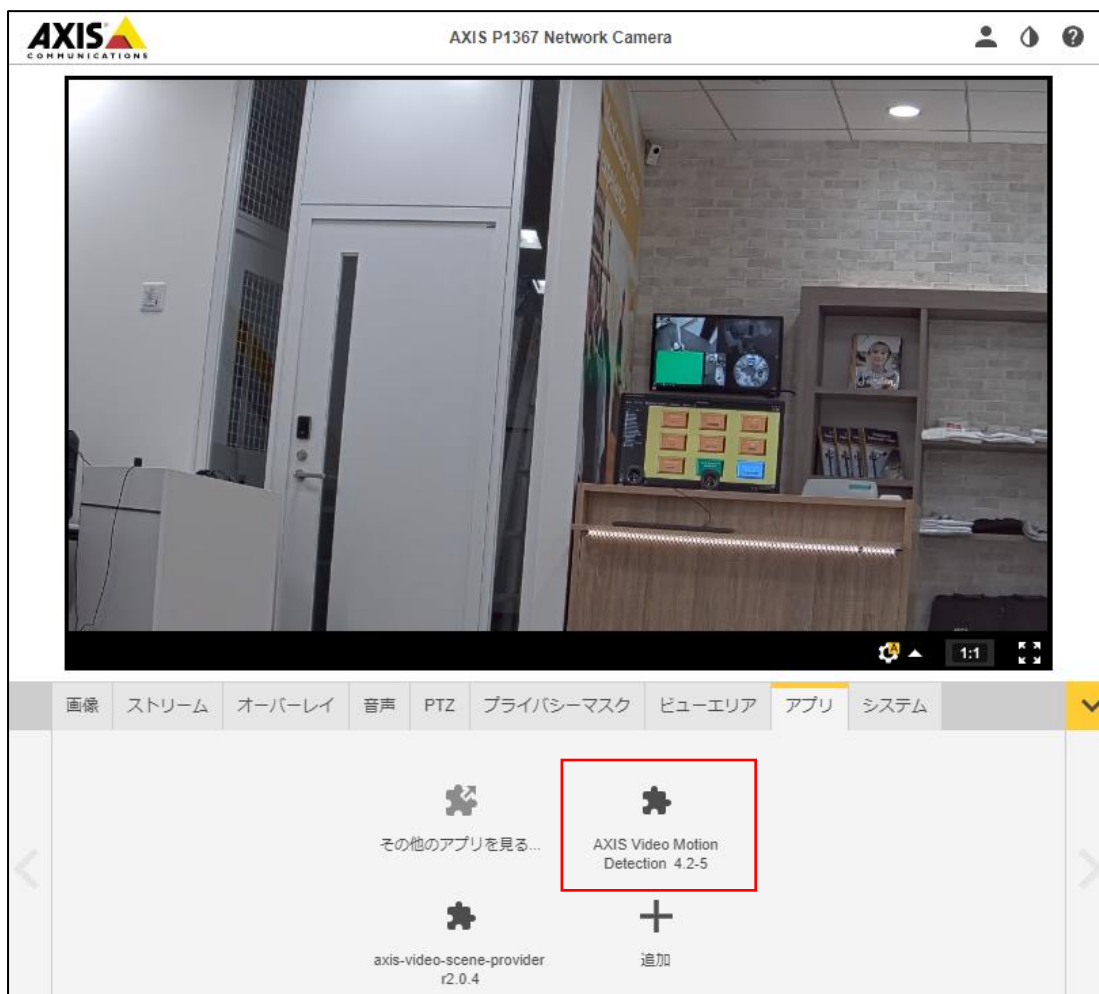
前述の手順でホームポジションを登録した後に「ホームへ戻る時間」の設定画面に PTZ 動作後ホームポジションへ戻るまでの時間を秒で指定してください。（デフォルトでは 0 が設定されており、機能は無効になっています。）



※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2018 年 10 月現在のものです。

手順 2 : AXIS 製固定カメラに動体検知の設定をする

1. 固定カメラの設定画面の「アプリ」タブ-「AXIS Video Motion Detection 4.x」をクリックします。



2. 「開く」をクリックし、AXIS Video Motion Detection を起動します。



※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2018 年 10 月現在のものです。

3. しばらくすると検知エリアの設定画面が現れます。そこで、ライブビュー画面上から検知したいエリアの枠を調整し範囲を変更します。

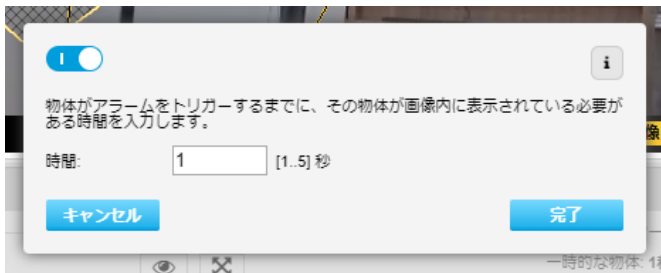


4. 中央の「除外範囲」や、「無視フィルター」を用いて動体検知の対象物が適切に検知できるよう調整します。
・除外範囲： 検知エリアにしない範囲を囲み除外



※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2018 年 10 月現在のものです。

- ・一時的な物体：画像内に短時間しか現れない物体を無視することで誤報を減らします。（秒数設定）



- ・小さな物体：指定した幅と高さより小さい物体は無視され、アラームはトリガーされません。（最小物体の大きさ設定）



- ・揺らめいている物体：揺れ動いている葉、旗、その影など、短い距離しか移動しない物体を無視します。（表示される楕円を参考に、画像全体に対するパーセンテージで指定）



※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2018 年 10 月現在のものです。

5. 実際に正しく物体を検知できるかを確認します。以下の通り検知エリアが赤く変化した場合は正しく検知出来たことを示します。これで” Profile 1” の検知エリアが作成されました。



手順3：AXIS 製固定カメラに HTTP コマンドの送信先情報を登録する。

1. 「システム」タブ-「イベント」を開きます。



2. ポップアップウィンドウから「Recipients」タブをクリックし、「Add」をクリックします。

3. HTTP コマンド送信先に関する情報を登録します。

Name

送信情報の名前を任意で設定します(半角英数)。

Type

HTTP を選択します。

URL

以下のコマンドを記述します。

`http://PTZ ネットワークカメラの IP アドレス/axis-cgi/com/ptz.cgi`

User name

PTZ カメラへアクセスするためのユーザーネームを入力します

Password

PTZ カメラへアクセスするためのパスワードを入力します。

※このほかに、PTZ ネットワークカメラの間にプロキシが存在する場合は、Proxy address、Proxy Port、Proxy user name、Proxy password を設定してください。

4. 「Test」 をクリックすることで HTTP 送信テストが可能です。

The image shows a 'Recipient Setup' dialog box with the following fields and annotations:

- Name:** Input field containing 'PTZ'. Annotation: 任意の名称 (半角英数)
- Type:** Dropdown menu set to 'HTTP'. Annotation: HTTP を選択
- URL:** Input field containing 'http://192.168.79.42/axis-cgi/com/ptz.cgi'. Annotation: HTTP コマンドを記述
- Login Credentials:**
 - User name:** Input field containing 'root'. Annotation: 送信先 PTZ カメラのユーザーネーム、パスワードを入力
 - Password:** Input field with masked characters '****'.
- Proxy settings:** A checkbox labeled 'Proxy settings' is unchecked. Annotation: プロキシを使用している場合はチェック
- Test:** A section with a 'Test' button. Annotation: HTTP コマンドの送信テストをする場合はクリック

At the bottom of the dialog are 'OK' and 'Cancel' buttons.

※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2018 年 10 月現在のものです。

5. 作成した送信先情報は送信先一覧「Recipients List」で確認が出来ます。

The screenshot displays the 'Recipients List' window within the 'Events' management interface. At the top, there are tabs for 'Action rules', 'Recipients', 'Schedules', 'Recurrences', and 'Manual triggers'. The 'Recipients' tab is selected. Below the tabs, the title 'Recipients' is shown. The main area contains a table with the following data:

Name	Type	Address	Upload path	User name
PTZ	HTTP	http://192.168.79.42/axis-cgi/com/ptz.cgi		root

At the bottom of the window, there are four buttons: 'Add...', 'View...', 'Copy...', and 'Remove'.

手順4：AXIS 製固定カメラにイベントを登録する

続いて、固定カメラに動体検知をトリガーとして PTZ カメラにコマンドを送信するためのイベントを登録します。

1. 再度「システム」タブ-「イベント」を開きます。
2. ポップアップウィンドウから「Action rules」タブをクリックし、「Add」をクリックします。

Enable rule

本ルールを有効にするにはチェックを入れます。

Name

ルールの名前です。半角英数で任意の名前を設定してください。

Trigger

利用するトリガーを選択します。

「Detectors」、「Application」と選択し、次に**手順2**で作成したウィンドウ「VMD 4: Profile 1」を選択しま

す。

「Active:」ラジオボタンにて、動きがあった時をトリガーとする場合「Yes」に、動きが止まった時をトリガーとする場合は「No」にチェックを入れます。

Schedule

24 時間 365 日連続してイベントを実行する場合：

「Always (No Schedule)」を選択します。

スケジュールを利用する場合はプルダウンから任意のスケジュールを選択します。

Additional conditions

トリガー条件を追加したい場合にチェックを入れ、トリガー条件を選択します。

イベントを実行した後、再びトリガーを受け付けるまでに待ち時間を設ける場合は「Wait at least xx:xx:xx before re-running the rule」に時間を指定します。

Type

実行するイベントの種類です。

「Send Notification」を選択し、つぎに「手順 3 で作成した送信先」をプルダウンから選択します。

Custom parameter

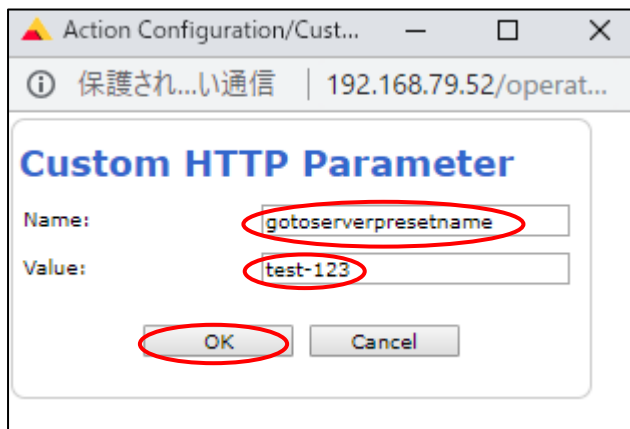
「Add」ボタンをクリックし、HTTP のパラメータを入力します。

「Name:」には、

gotoserverpresetname

と記述します。

「Value:」には、手順 1 で作成したプリセットポジション名を記述し、OK をクリックし保存します。



作成したパラメータが Action rule に反映されます。

3. OK をクリックしてイベントを保存します。

Action Rule Setup

General

Enable rule

Name: GOTOPTZ **任意の名称 (半角英数)**

Condition

Trigger: Applications **Applications を選択** Start condition only

VMD 4: Profile 1 **VMD4: Profile 1 を選択**

Active: Yes No

Schedule: Always (No Schedule)

Additional conditions

Wait at least 00:00:00 before re-running the rule (max 23:59:59)

Actions

Type: Send Notification **Send Notification を選択**

PTZ **送信先を選択**

*Message parameter:

*Custom parameter:

Name	Value
gotoserverpr...	test-123

[*See help for more info](#)

作成したイベントは、「Action Rules」の一覧に表示されます。

イベントの有効/無効はチェックボックスで行えます。

送信先を変更したい場合は Recipient プルダウンメニューから選択してください。

Events

[Action rules](#) Recipients Schedules Recurrences Manual triggers

Action Rules

Action Rule List				
Name	Trigger	Schedule	Action	Recipient
<input checked="" type="checkbox"/> GOTOPTZ	Applications - VMD 4: Profile 1	-	Send Notification	PTZ ▼

Add... Copy... Modify... Remove

送信先は変更可能です

以上

※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2018 年 10 月現在のものです。